

## 4 原子力発電所で事故が起きたら

原子力発電所で事故が起きたら、放射性物質（目には見えず、においもありません）がもれ出し、体に様々な影響を与える可能性があります。そのときは、どのように行動したらよいのでしょうか。

### ◇放射性物質とは◇

原子力発電の燃料としてウラン鉱石が使われます。このウラン鉱石からは目に見えない光のようなものが出ています。これを「放射線」と呼びます。ウラン鉱石のように、放射線を出す能力（放射能）のある物質を放射性物質と言います。

## 事故が起こったとき 守ること・大切なこと

### 正しい情報を集める（情報収集）

◆テレビやラジオ、インターネット、防災無線等で情報を入手する。

◆近所の人と情報を確認し合う。



◆建物の中に入る（屋内待避）

◆ドアや窓を全部閉め、エアコンや換気扇を止める。（外気を遮断）

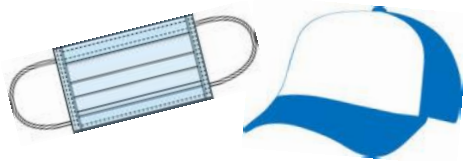
◆外から帰ったら手や顔を洗い、服は脱いで袋に入れる。

### 避難の指示に従う

◆自宅の戸締まりを確認する。

◆マスクや帽子を着用する。

◆近所の人にも知らせる。



コンクリート屋内避難指示が出されたら…  
気密性が高い、コンクリート造り建物の中に入り、放射線などから身を守る。

## 原子力災害に対する対策（宮城県）

女川原子力発電所で、放射線が漏れ出すような事故が起きたときに、すぐに避難や対処が必要な区域に、登米市の一部が含まれています。（「緊急時防護措置を準備する区域」）

### 「緊急時防護措置を準備する区域」

- ◇ 発電所から30kmが目安（登米市の一部）
- ◇ 事故が起きたときに、屋内待避または避難が必要な区域。
- ◇ 状況により安定ヨウ素剤を配布。

### 気をつけること

室外のものは放射能に汚染されている危険が…  
土、砂、水たまり、雨水、雪、植物、外にあるものなどにはさわらない。

30km 以上でも、風向きなどが影響するから、安心できないね。

### 【宮城県原子力対策重点区域】



発電所から5km以内の女川町などは「予防的防護措置を準備する区域」に指定され、事故が起きた場合に、避難または屋内待避が必要な区域で、事前に安定ヨウ素剤を配布しています。